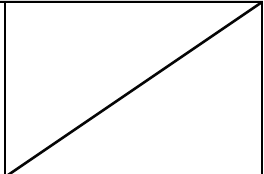


令和元年度第1回「大分県食品安全推進県民会議」ご意見等

R1.7.12開催

ご意見等の概要	県の考え方・取組状況等	関係課
【各課の事業について】		
GAP認証について		
成果の部分で、青果物認証全国2位、団体認証全国1位とあったが、それが出荷量増加などの農家の利益につながっているか。(大呂会長)	取引先、出荷先が増加した。農家にとっては大きな成果となっている。	地域農業振興課
5年計画の中で1年目で約2/3程度達成しているが、これは指標の数値を大きく超えていく見通しなのか、それとも取得すべき農家はある程度取得したという感じなのか。(大呂会長)	①この数字は、来年度で終了する「安心いちばんおおいた産農産物認証制度」を含めた数字である。これを考慮して、現在、農林水産部長期計画（H36目標）を見直し中であり、本目標についてもこれを反映する予定である。 ②園芸戦略品目12品目（花き類除く）中、本年度の小ネギの取組を含めて6品目でJGAPに取り組むめどが立った。残る6品目は伸びしろと考えているが、GAP認証取得には取得経費の負担や生産者組織内の合意形成等のハードルもあるため、該当品目に対する市場からの取得要請等のきっかけも必要である。	地域農業振興課
取得が難しい品目の理由は？(大呂会長)	昨年度取得したのは、梨だが、取得できた一番の理由は、出荷先から求められたこと、そして輸出していること。取得は、そういう点を踏まえた結果になっている。取得していない品目は、今後のオリンピックやHACCP義務化の中でGAPのニーズが高まっていくかどうかに影響を受ける。	地域農業振興課
県版GAP終了後の対応はどのようになるのか？(淵副会長)	①JGAPを推進するとともに、生産者のニーズに応じてGGAPやASIGAPにも対応していく。 ②県が運営主体となる制度の創設は考えていない。	地域農業振興課
生産者のGAP認証支援に関する取組を教えてください。(淵副会長)	初回審査に伴う認証経費の支援や、認証取得のための事前指導等を行ってきた。	地域農業振興課
消費者と食品事業者の相互理解の推進について		
昨年度、2月20日に行われた食品表示の講座に参加したが、クイズ形式の内容が大変良かった。これからもこのような参加型の講座を開催してほしい。(大村委員)	(ご意見)	
HACCPについて		
HACCPに取り組んでいってるが、どこまでやればいいのか、目標、ゴールをどこに設定すればいいのか、具体的に何をやればいいのか、明確でないので困っている。(緒方委員)	非常に曖昧な表現で申し訳ないが、施設ごとに、施設にあったやり方をやってほしい。衛生計画を立てて、今できることから始めてほしい。民間認証などには拘る必要はない。各業種ごとに手引書が示されているので、それを参考にしてほしい。全ての店舗に、というのは難しいが、各保健所、当課で出来るだけ相談のっていく。一番の目標である「食品事故を起こさない」ことを達成できるように、できるだけ取組を行って行きたい。	食品・生活衛生課
HACCPでは、記録が重要、記録をとれ、と言われるが、何かシステムの構築などの簡便化への対策が必要なのではないか。(緒方委員)	予算の面もあるので即答はできないが、非常に重要な意見なので、今後検討していきたい。	食品・生活衛生課
HACCPが始まって、施設で、記録のペーパーだけが増え、理屈を理解できていない、という状況にならないように。本格施行後も中身を理解して運用されていくように県からの指導をお願いしたい。(大呂会長)	各保健所、食品衛生協会などと連携して、指導を行って行きたい。	食品・生活衛生課
県による情報発信について		
県の食品安全に関する情報が検索しても見つかりにくい。食中毒注意報なども、もっと内容が具体的で生活に密着したような内容を入れて欲しい。県内、国内で食中毒などがあつたとき、すぐに見ることができるととても身近に感じられる。是非検討してほしい。(首藤委員)	大分県防災メールで食中毒注意報を送っている。行数に限りがあるが、いろいろな内容を入れていくようにしている。先月はO157に対する注意喚起の内容を入れた。まだまだいろいろな方法、媒体があるので、県民1人1人に情報が届くよう取り組んでいきたい。	食品・生活衛生課

小学校向けの取組について

<p>いろいろな取り組みをしてくださっているが、どうしても小規模校のほうが取り組みやすく、学校も小規模校のほうが手を取りやすいので、実際に取り組みが行われるのは小規模校ばかりになってしまう。何か方法を考えてもらい、大規模校向けの取り組みも行ってほしい。(首藤委員)</p>	<p>(ご意見)</p>	
--	--------------	---

輸入食品の安全性の情報発信を

<p>最近、牛肉、豚肉の輸入が増えている気がするが、消費者の知識が足りないまま流通している。間違った偏見をもってしまっているかもしれない。消費者として親として是非正しい知識を知りたい。(首藤委員)</p>	<p>(ご意見)</p>	
--	--------------	---

RWC外国人客対応について

<p>宿泊予約の国外客割合は大分市より別府市のほうが多い。今まで扱ったことのないお客への対応について、どうすればいいか見えておらず大変不安。アレルギー、食中毒など海外の人に説明できるようなものを作って各施設に配布してもらえると大変有り難い。(緒方委員)</p>	<p>県では昨年度、アレルギー対応の冊子を作成し配布している。内容はメニューにアレルギー物質をシールで貼り、英語、中国語、韓国語を記載した説明シートなどである。各保健所から配布を行っている。また、アレルギー 7 品目を使用しないメニュー開発もしており、是非参考にしてほしい。</p>	<p>食品・生活衛生課</p>
--	---	-----------------

災害時、避難所での衛生管理について

<p>県としてどのような対応をしているのか。(淵副会長)</p>	<p>日田や津久見での災害時などでは、管轄の保健所を中心に避難所での食品の取扱いについて、チラシ、ポスターなどで啓発活動を行っている。災害後の営業再開時には施設の消毒が重要で、消毒方法などの指導も行っている。また、食品衛生協会と協定を結び、災害時の衛生対策に支援を頂いている。</p>	<p>食品・生活衛生課</p>
----------------------------------	--	-----------------